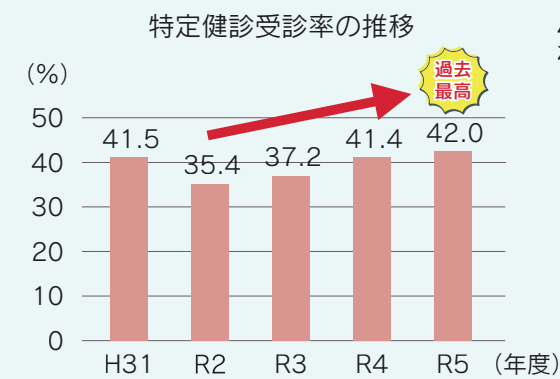


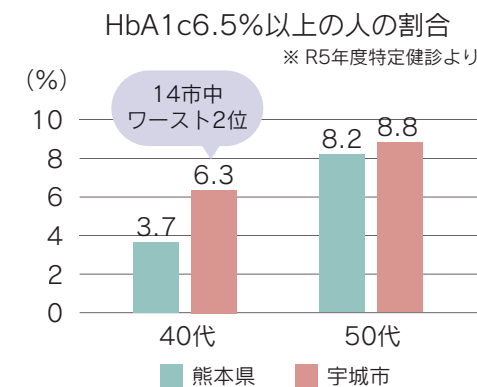
未来の後悔より、今の安心を 健診(検診)の申し込みは お済みですか？

図 健康づくり推進課 ☎32-7100



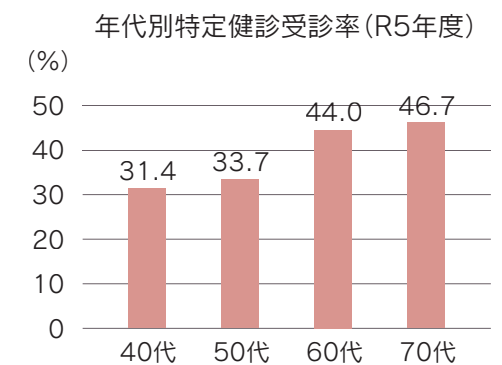
「健診」と「検診」、みなさんはその違いを知っていますか。どちらも「けんしん」と読みますが、異なる意味を持っています。「健診」は、健康診査(健康診断)の略語で全身の健康状態を検査することで、「検診」は特定の病気を早期発見するために体の一部を検査することです。市の健診受診率はコロナ禍で低下しましたが、徐々に回復傾向となっています。令和5年度は過去最高の受診率で、自身の健康に対する関心の高まりが表れています。健診(検診)の重要性を再認識し受診することで、健康の維持と病気の早期発見につなげませんか。

Topic 1 40～50代の高血糖増加中！若いからといって安心できません

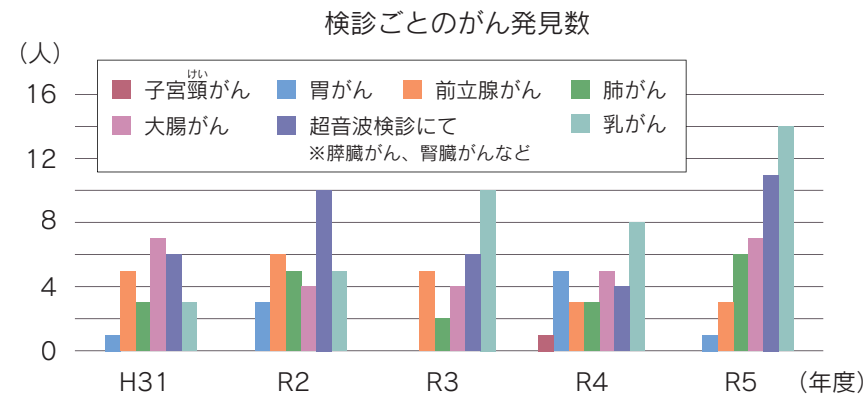


市の健康課題は「高血糖」ですが、ここ数年は「高血糖」の人が増加しています。高血糖は肥満と深い関係があり、そこから糖尿病へとつながりやすくなります。肥満になるとインスリンの効きが悪くなり、血糖値が上がります。血糖値が高いままだと、糖尿病から人工透析や失明などにつながる恐れがあります。糖尿病の診断指標である「HbA1c」は直近1～2カ月の血糖値の様子を表し、HbA1c6.5%以上の人は糖尿病型とされています。近年では、HbA1c6.5%以上の人の割合が増加傾向にあり、特に40代、50代で顕著です。

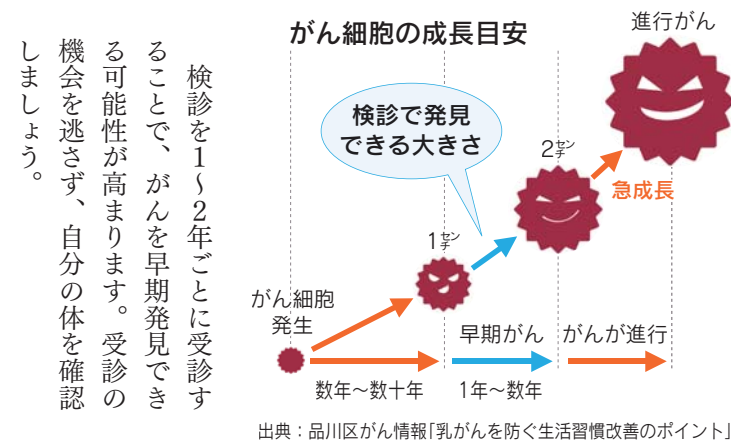
しかし、市の特定健診受診率を見ると、40代、50代の受診率は低い現状です。HbA1cが少し高くて少しずつ体調の変化には現れません。しかし、長い時間をかけて徐々に全身に影響を及ぼします。高血糖の人は改善に向けた速やかな取り組みが重要です。血圧や体重は、自分で測定できますが、HbA1cは健診や病院で血液検査をしないと、数値は分かりません。そのため、体調の変化はなくても、若い時期から健診を受け、身体の状態を確認しましょう。



Topic 2 がん検診で毎年30～40人に「がん」が見つかります



がん検診の目的は、がんを早期に発見して治療につなげ、がんによる死亡率を低下させることです。市では20歳以上の市民を対象にがん検診を実施しています。しかし、健康宇城市21計画で示しているがん検診の受診率の目標値には届いていません。



以前のがん検診で「異常なし」の結果だからと安心していませんか。それは大きな間違い。がんの成長速度をご存じですか。1つのがん細胞を、検診で見つけることができる大きさ(1センチ以上)のがんになるまで、10年から20年ほどの時間がかかります。しかし、その後は急激に成長速度が速まり、2センチになるまで、乳がんではたったの1年半ほどしかかかりません。

健診(検診)のご案内

		20～29歳	30～39歳	40～74歳 (国民健康保険加入者)	75歳～ (後期高齢者医療保険加入者)
集団健診 (4～5月・9月)	基本健診※1	生活習慣病健診		特定健診	後期高齢者健診
	がん検診	腹部超音波・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん・骨粗しょう症 (検査対象は年齢・性別で異なります)			
市内医療機関 (7月ごろ～)	基本健診※1	生活習慣病健診		特定健診	後期高齢者健診
	がん検診	子宮頸がん・乳がんのみ(検査対象は年齢・性別で異なります)			
人間ドック※2	基本・がん ※1		国民健康保険加入者	後期高齢者医療保険加入者	

※1 身長、体重、血圧測定、血液検査、尿検査など ※2 詳細は4月号で掲載予定

令和7年度集団健診(4～5月)

希望調査票を1月上旬に各世帯へ郵送しました。手元にない場合はお問い合わせください。



詳しくは
市 HP

令和6年度の健診(検診)の受診期限が迫っています。詳しくは18ページをご確認ください。